

平成 17 年度 第 3 回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成 17 年 10 月 20 日 (木) 18:30~20:30

横須賀市立市民活動サポートセンター

出席委員 12 名……柴崎、多田、伊藤、井上、小野、角田、佐藤、鷹野、増田、増渕、松井、有森
事務局 4 名……YMC A よこすかコミュニティサポート 高村、渡辺
市民生活課 小座野、堀井

1 報告事項

次第に沿って報告を行った。

2 審議事項

(1) 市民公益活動団体、(2) のたろんフェア 2006、(3) 春の市民活動体験 について、提案どおり承認した。

3 その他、提案事項

(1) 運営委員の氏名掲示について (2) サポートセンターのレイアウトについて (3) 一時預かりロッカーの導入について (4) まちづくりミーティングのお知らせ [意見概要] のとおり

[意見概要]

◆ のたろんフェア 2006 について

(事務局)

昨日、参加団体が規定の 52 団体集まったので募集を締め切った。今回で 5 回目になり恒例行事になりつつあることと、春の情報紙のたろんにサポートセンター年間行事を掲載してフェアの日程をのせていたので各団体で年間予定に入れてくれたようで、参加団体募集に対する各団体の反応が早かった。フェアの概要については企画書のとおりだが、今年は会場を 4 つのテーマごとの「村」に分ける。

(柴崎委員)

新規参加団体は入っているか。

(井上委員)

ドブ板バザールとの連携は。

(事務局)

ドブ板バザールは同日に開催される。新規団体は早めの申込が多かったため、常連団体が出店できるか心配になるほどだった。

(増田委員)

できたら村ごとのまとまりが分かりやすいようなアイデアがほしい。村を象徴するものや色などがあったらよい。せっかく 4 つの「村」をつくるのだから一目で分かるようにするべきだ。今回、残念なことは舞台・パフォーマンス系の発表の場がないということ。幸いなことにパフォーマンス系団体の参加が少なかった。逆に「村」というまとまりを作ったことは大変評価したい。パフォーマンス系団体については何とか知恵をだしてやっていきたい。

(事務局)

団体数の内訳は、地域の安全・安心と環境村が 14 団体、こころと健康・ふれあい支えあい村が 29 団体、IT と地域振興・グローバル村が 4 団体、市制 100 周年・歴史未来文化村が 5 団体となっている。また、運営委員の増田さん、増渕さんに実行委員としてもご協力いただいている。

(柴崎委員)

11月25日の参加団体説明会で趣旨をしっかりと説明してほしい。それから、レイアウトについても説明会で示してほしい。レイアウトが分からないと、団体間で具体的な相談ができない。

(増田委員)

昨年ののたろんフェアで面白いと思ったのは、申込用紙に団体のPRスペースがあったこと。市民活動にとって団体アピールはとても大切なこと。ポストカード大のもので構わないので、団体アピールを書き込んでもらい、ポストカードPRコンテストを開いたらどうか。そういったことが団体を育てていくことにもつながるのではないかと思う。また、今回のようにグループごとに団体間の交流をつくるのも良い考えだと思う。参加団体の自主性、協調性を引き出すために、実行委員会がどこまで手助けをするか、参加団体にどこまで主導権を持ってもらうかのバランスが重要になってくる。

(有森委員)

村ごとの団体数に偏りがあるのでバランスをとるようにはできないか。

(事務局)

村(テーマ)によってある程度団体数に偏りができるのは予想していた。今後は参加団体で話し合いを行い、どのように運営していくか具体的に考えていく。その過程で、村を再分割することもあるかもしれない。

◆ 運営委員の氏名掲示について(提案事項)

(増田委員)

イメージとしては社員食堂に食堂委員の名前が貼ってあるような感じ。食堂を利用しやすくするために誰に相談したらよいか、どうしたらよいか具体的な手段として食堂委員氏名が貼り出してあれば分かりやすい。それだけではなく、運営委員会という組織があり、利用者を代表してサポートセンターの運営を検討していることなど、サポートセンターの仕組みを周知していくことは大切である。運営委員会での審議内容なども張り出したい。

(角田委員)

一般利用者から、そのような要望はあるか。

(事務局)

一般利用者からの要望はない。

(井上委員)

一般企業では職場委員が掲示されていることの方が少ないように思う。そこまでやる必要があるか。やるならば、顔写真まで出さないと意味がないのではないか。

(鷹野委員)

私も初めてサポートセンターを利用したときは、この施設の仕組みがよく分からなかった。運営委員になって初めて分かったところも多い。サポートセンターの仕組みを一般利用者に分かりやすくすべきではないか。

(多田委員)

確かにサポートセンターは、何だか分からない施設だという印象はある。

(鷹野委員)

団体登録をすれば入りやすいが、個人に対しては厳しい。

(柴崎委員)

HPにも掲載してあるように委員の氏名・団体名までは掲示してもよいのではないか。

(有森委員)

何のために掲示をするかはっきりさせる必要がある。

(柴崎委員)

運営委員会が運営の全てを担っているわけではない。その部分をはっきりさせておく必要がある。

(増田委員)

顔の見える関係にしたいというのが提案の趣旨である。

(事務局)

運営委員の氏名や議事録はサポートセンターのHPや情報コーナー、市役所の市政情報コーナーなどにある。しかし、サポートセンターの運営の仕組みについては具体的な説明がない。サポートセンターの仕組みとして、指定管理者と市と運営委員会の3者で検討しながら運営を行っていることを分かるようにするのは良いことだと思う。

(柴崎委員)

サポートセンターの仕組みについて示したものを事務局でたたき台を作り、次回の運営委員会で検討することとしたい。

◆ レイアウトの検討について（提案事項）

(増田委員)

サポートセンターは開設して5年経過し利用者が増え、利用状況も変わってきているので、現状に合わせた利用方法などを再検討していく必要があると考え提案した。提出した資料には「レイアウト検討」とあるが、物の配置だけではなく、サポートセンターの運営に関わる部分を見直していくという意味である。委員の方々にもご賛同を頂き、検討していきたい。

(有森委員)

「変化ありき」ではなく、新たな視点で見直しを図ることは必要。

(多田委員)

サポートセンターは市民にとって必要な施設なのでよりよくしていくための改善は必要。しかし、改善するためにはある程度お金が必要になる。予算が増額されることはないのか。

(事務局)

現在、市の財政は非常に厳しい。予算枠が決まっていて、どこかを増やすとどこかを削らなければいけない。基本的に前年度より増額されることはない。

(伊藤委員)

本当に必要なものであれば、市民の意見が反映されなければならない。

(松田委員)

指定管理者で独自に事業を興し、収入にすることはできないのか。

(事務局)

指定管理者としてルールを決めて収入を得ることは、可能だと思う。

(多田委員)

目的をはっきりさせれば、資金は集まると思う。

(事務局)

市民協働審議会でも基金について調査研究をしているが、どのように基金を集めるかが問題になっている。

(増田委員)

例えば市民が 20 万円寄附したら、市が同額を拠出するというのはどうか。

(事務局)

マッチング方式という寄附形式のひとつ。

(増田委員)

横浜市の基金はうまく機能していないという話を聞く。目的を定めた方が寄附が集まりやすいのではないか。

(事務局)

のたろん基金のような自由度の高いもの。

(鷹野委員)

サポートセンターの事業は資金があるからやる、ないからやらないという類の問題ではない。ひとつひとつ課題を分類し、洗い出しをする必要がある。もちろん利用者からの意見が重要になる。

(事務局)

今までも、利用者の意見から改善されてきたものもあれば、できなかったものもある。例えば歩道のバリアフリー化は利用者の声によって改善できた点だが、印刷機などの音の問題はなかなか改善できていない。音の問題はサポートセンターがフリースペースであることや、他都市の施設で囲いがあっても騒音が解消されるわけではないことから費用対効果を考えると難しいと考えている。

(鷹野委員)

毎年センターの課題、問題点について、見直しや洗い出しを行うべきではないか。今までの積み上げをまとめてほしい。

(柴崎委員)

施設の問題や課題に対してどのような方向で取り組んでいくか検討していく必要がある。また、解決に向けては予算の問題も大きい。しかし、最終的に市を動かすのは利用者の声だと考える。運営委員会に課題解決検討委員会を立ち上げてはどうか。

(事務局)

サポートセンター開設時と比べると利用者も増え環境が変わってきているため、指定管理者としても実際に運営していくなかで運営方法についての提案がスタッフサイドからあがっている。増田委員の提案をもとに各委員からも意見を出し、それをまとめた上で検討していったらどうか。

(鷹野委員)

委員として個別の課題を分担したらどうか。担当がはっきりすることで、委員の責任感も増すのではないか。様々な問題を短時間で検討することは限度がある。運営委員会のあり方についても今後検討していくべきである。

(事務局)

次回の運営委員会までに各委員からの提案をまとめたい。11 月中に事務局に提出してほしい。

◆ その他（一時預かりロッカーの導入・運営について）

(事務局)

かながわ学術研究交流財団からロッカーを譲り受けたので、その利用方法について提案したい。運営委員会で使用が承認されたらすぐにでも利用者へ開放していきたいと考えている。以前から利用者から受付で荷物を預かってほしいという依頼を受けることが多く、依頼を受ければ対応するようにしているが、紛失や破損などに対して責任を取りきれないということがあり、スタッフから荷物の置き場を作りたいという要望があった。今回リサイクルできるロッカーが出たので一時預かりロッカーとして導入することとしたい。センターの利用団体、利用者へ限定し、料金は 1 日 100 円にしたい。最長の利用期間は今までの一時的預かり期間を勘案して 1 週間とする。運営委員会で承認を得たら、1 2

月いっぱいまで施行期間を設けたい。

(鷹野委員)

無料でもいいのではないかと思います。

(角田委員)

年間利用（有料）のロッカーがあるので無料だと不公平になる。有料でも利用したい人がいるのであれば、1日100円でもよいのではないかと。

(事務局)

利用料金収入は運営委員会に報告し、センターの運営に役立つように利用者に還元していきたいと考えている。

(柴崎委員)

センターの基本理念が自主管理なので、スタッフが荷物を預かる負担や市中のコインロッカーの値段等を考えると妥当ではないか。利用者からも早く利用したいという声が聞かれるので、早急に導入したほうがよい。

以上